

「おとふけ」の 伝承

私たちのふるさと「おとふけ」。先人たちの労苦があり、いま、私たちの住む「おとふけ」がある。広報おとふけでは、音更町に根をおろし、ふるさとを築いてきた人たちの後世に語り継ぎたいお話しを紹介しています。



今井 武さん

昭和9年1月26日生まれ。
雄飛が丘南区在住

私の生い立ちと 戦時中の思い出

私

は昭和9年1月26日、上川管内の幌加内町で農家の長男として生まれました。小学4、5年生の頃はとにかく兵隊になりたかった。勉強よりも毎日山でぶどう蔓やイタドリを採っていました。昭和20年8月15日、近所の人たちがラジオを前に正座し、終戦を知らせる「玉音放送」を聞きながら涙する姿を見て、なぜ大人は泣いているのか不思議に思いました。

青少年時代の夢と 土建会社に就職

新

制中学校の寄せ書きに「夢は世界一の農家になること」と書いて、卒業後

は父と一緒に水田耕作に励みましたが思うようにいかず、弟に後継ぎを託し、運転手になるために滝川へ行きました。若い時でしたので頑張っているいろいろな運転免許を取得する中、昭和36年、秩父別町に本社がある土建会社に就職。翌年、奈井江町出身の妻と出会い結婚しました。昭和45年、会社の支店が音更にできたので、単身音更町に came ました。

音更町での生活 詩吟・浪曲など

42

歳の時、友だちに誘われて習い始めた詩吟と浪曲との出会い、やがて教える立場になってあちこちと飛び回るようになった私は、仕事よりも趣味に専念したいという思いが強くなり、平成8年、妻に内緒で会社を辞めました。趣味が生きがいとなり、私は多くの仲間恵まれました。

十勝に来て48年の歳月が過ぎる中、音更町が好きになって、この地で生涯生き抜こうと決意しました。

町内会・老人クラブで まちづくりに参加

退

職を機に町内会副会長になり、2、3年過ぎると今度は「会長になってほしい」と言われました。「冗談じゃない」と返すと「あなたの両親はこの町内会で葬式出したよな、恩返しというのがあるぞ」と実にうまいことを言われて、平成25年までの12年間、町内会長を務めました。現在は東部福寿会という老人クラブの会長をやっています。クラブの前身は昭和37年に西然寺の和尚さんが檀家の人たち60人で始めた福寿会。会員は40周年の463人をピークに今は約200人です。おかしな話だけど、老人クラブも60代の入会がなく高齢化が進んでいます。そこで町内会ごとに老人クラブを作り、裾野を広げていければと考えています。「入ったら何か良いことあるの」とよく聞かれますが、今日は何着ていこうかなと考えながら、人と出会う会話を、これだけでも活性化につながると思うのです。

故郷になった音更町 に期待すること

よ

く「あなたのまちの自慢は何ですか」と聞かれると、さして何だろうかと返答に困ってしまいます。目に見えて自慢できる目玉がほしいと思います。交通網をもっと充実させるなど、高齢者対策にも期待しています。「教育と教養は大事だと耳にしますが、年をとると今日行くところ」と「今日用事があることが大切です。老人クラブにも元気な人がたくさんいます。回り番で家にこもりがちな一人暮らしの人に声をかけたり、一緒に外出するとか、高齢者同士が支え合う、そんなまちになるといいですね。



帯広市で開かれた浪曲大会に出演し自慢の喉を披露したときの模様